

明豆遺跡発掘調査報告
～三重県度会郡玉城町宮古～

2022（令和4）年3月

三重県埋蔵文化財センター

例 言

- 1 本書は、令和2年度に実施した高度水利機能確保基盤整備事業（宮川左岸地区）に伴う明豆遺跡の工事立会による埋蔵文化財調査報告書である。
- 2 工事立会は、三重県教育委員会が三重県農林水産部から依頼を受けて実施した。発掘調査および整理作業の経費は、国庫補助金を得て三重県教育委員会が一部負担し、他は三重県農林水産部から執行委任を受けた。
- 3 発掘調査の体制は次のとおりである。

調査担当 三重県埋蔵文化財センター 調査研究1課
穂積裕昌 原田恵理子 角正芳浩 元座範子（令和2年度）

整理担当 三重県埋蔵文化財センター 調査研究1課
元座範子（令和2年度） 小濱学（令和3年度）

調査期間 令和2年12月1日から令和2年12月2日

調査面積 40㎡
- 4 当報告書の作成事務は、三重県埋蔵文化財センター調査研究1課が担当し、本書の執筆・編集・写真撮影は元座、小濱、田中久生が行った。
- 5 調査図面・写真・出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターにて保管している。

凡 例

- 1 本書で使用した地図類は、国土地理院発行の1:25,000数値地図「伊勢」「国東山」（平成20年10月発行）を用いた。
- 2 本書で用いた座標は世界測地系に基づくものである。方位は第VI座標系の座標北で示した。
- 3 標高は東京湾平均海面（T.P.）を基準とした。
- 4 本書で用いる遺構略号は以下のとおりである。

SD：溝
- 5 土色の表記は、小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社、1967年初版）に拠った。遺物観察表における土器の色調表記もこれに従う。
- 6 註及び参考文献は本文の文末に記した。
- 7 写真図版中の遺物に付した番号は、報告番号と対応する。遺物写真は縮尺任意である。

本文目次

I 前 言	1
1 調査に至る経緯	1
2 調査の経過と方法	1
3 文化財保護法にかかる諸手続き	1
II 位置と環境	1
III 調査の成果	3
1 基本層序	3
2 遺 構	3
3 遺 物	5
IV 小 結	5

挿 図 目 次

第1図 調査区位置図及び地形図	2	第4図 遺構平面図	4
第2図 遺跡位置図	2	第5図 遺物実測図	5
第3図 南壁土層断面図	3		

写 真 図 版

写真図版1 遺跡の遠景1 (北西から) 遺跡の遠景2 (北東から)	写真図版5 調査区東端から14m付近 (北から) 調査区東端から19m付近 (北から)
写真図版2 遺跡と周辺の地形 (南西から) 調査前の状況1 (西から) 調査前の状況2 (東から)	写真図版6 調査区東端から27m付近 (北から) 調査区東端から32m付近 (北から)
写真図版3 調査区東端の掘削状況 (東から) 調査区西端の掘削状況 (東から)	写真図版7 出土縄文土器 工事施工後の状況 (東から)
写真図版4 S D 1 掘削状況 (北から) 調査区東端から9m付近 (北から)	

I. 前 言

1 調査に至る経緯

本書で報告する調査は、令和2年度高度水利機能確保整備事業（宮川左岸地区）に伴って実施した、埋蔵文化財の記録保存にかかわるものである。当事業の主体は三重県農林水産部、実施機関は伊勢農林水産事務所である。

令和元年11月11日に行った確認調査の結果から伊勢農林水産事務所と協議のうえ、埋蔵文化財の記録保存を図るため、令和2年度に工事立会を実施することとなった。

2 調査の経過と方法

(1) 経過

調査は、令和2年12月1日から2日にかけて実施した。その経過は、以下のとおりである。

【調査日誌（抄）】

令和2年

12月1日 調査開始。調査区設定。表土掘削。遺構掘削。写真撮影。遺構実測図作成。

12月2日 表土掘削。遺構掘削。写真撮影。遺構実測図作成。

(2) 方法

調査は、調査区東側から開始した。

表土から遺構検出面に至るまでは、重機による掘削

を行い、遺構検出及び遺構掘削は人力で行った。なお、夜間は交通の往來を確保するため、調査箇所を埋戻しを日毎に行った。

遺構の実測については、遺構掘削が終わった部分から平面図と土層図（1/20）を、当センター職員による手測りで順次作成した。

写真の撮影には、一眼レフデジタルカメラを用いた。遺構写真は、ニコンD3300で撮影し、補助的にコンパクトデジタルカメラを用いた。遺物写真は、ニコンD800Eを用いた。

3 文化財保護法にかかる諸手続

今回の調査にかかる埋蔵文化財の文化財保護法等にかかる手続きは、以下のとおりである。

①文化財保護法第94条に基づく三重県文化財保護条例第48条第1項

「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等の発掘通知書」

三重県教育委員会教育長あて三重県知事通知
令和元年10月3日付け、勢農第3308号

②文化財保護法第100条第2項

「埋蔵文化財の発見・認定通知」

伊勢警察署長あて三重県教育委員会教育長通知
令和3年1月6日付 教委第12-4421号

（元範 節子・小濱 学）

II. 位置と環境

明豆遺跡（1）は、行政上度会郡玉城町宮古に所在する。当遺跡が所在する玉城町は、伊勢平野の南部に位置し、北に多気郡明和町、東に伊勢市、南に度会郡度会町、西に多気郡多気町と境界を接している。また、遺跡立地としては、汗谷川右岸の段丘先端部にある。現在の土地利用は、畑地が大部分を占めている。

なお、地理的環境や周辺遺跡の概況については、『との山・アレキリ遺跡（第1～3次）発掘調査報告』に詳細が述べられている¹⁾ので、そちらに譲り

たいと思う。あらためて、明豆遺跡周辺の旧石器・縄文時代に絞って概観していく。

明豆遺跡では、これまでに旧石器時代のナイフ形石器、縄文時代中期・後期の土器や石器、剥片が表面採集により確認されている²⁾。

当遺跡の西約500mには、上地山遺跡（2）が存在している。旧石器時代の遺構としては焼石を含む礫群1箇所、石器・石核・剥片など総数778点が報告されている³⁾。その他の旧石器時代の遺物が確認された遺跡としては、ナイフ形石器や縦長剥片が確

Ⅲ. 調査の成果

1 基本層序

明豆遺跡では、調査範囲において基本的に一連で堆積した土層を確認することができた。基本層序は、現道のアスファルト部分も含めた8層からなる。

1層 現道舗装のアスファルトである。厚さは場所によって異なるが約4～6cmである。

2層 造成土で現道の路床となる砕石である。厚さは場所によって異なるが約12～25cmである。

3層 7.5YR4/2・灰褐色土である。現道が設置される前の何らかの擾乱を受けているものか。厚さは場所によって異なるが約4～45cmである。

4層 10YR2/1・黒色土の層で、造成等の影響を受けた土層であろうか。厚さは場所によって異なるが約8cm～24cmである。

5層 2.5Y3/1・黒褐色土の層で、調査区東端から10m付近で現出し、厚さは場所によって異なるが約12cm～20cmである。

6層 7.5YR1.7/1・黒色土極細粒砂混の層で、調査区東端から14m付近で消失する。厚さは約4～8cmである。

7層 7.5YR4/3・褐色土極細粒砂混の層で、調査区東端から13m付近で消失する。厚さは約4～12cmである。

8層 10YR5/8・黄褐色土細粒砂混の層で、遺構検出面といえる。

調査区内では、明確な遺物包含層を確認することはできなかった。6・7層がそれにあたる可能性はある。

(元座範子・小瀬学)

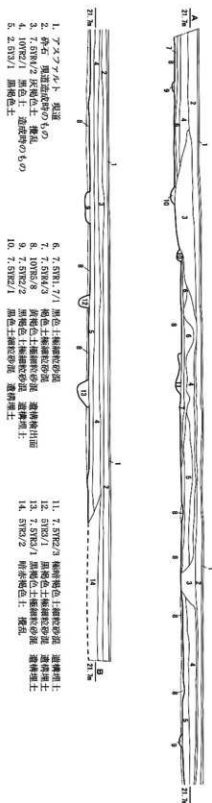
2 遺構

遺構は、8層の上面で複数の柱穴や溝1条を確認することができた。

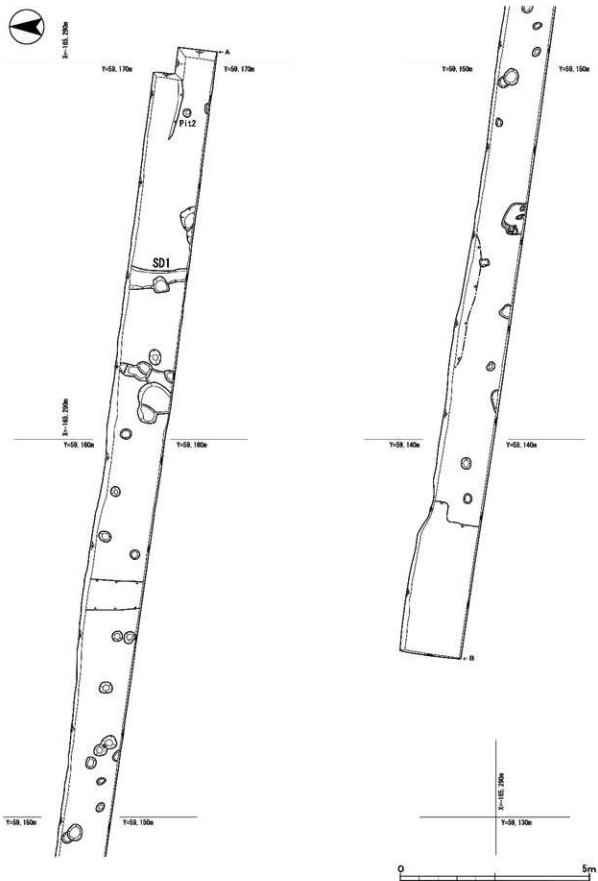
(1) 縄文時代

柱穴pit 2

遺構の規模は、直径20cm程度の円形で、深さは10cm程度であった。遺構埋土から、土器外面に条線が



第3図 南壁土層断面図 (1:100)



第4圖 遺構平面圖 (1:100)



第5図 遺物実測図 (1:3)

施された縄文土器深鉢体部片が1点のみ出土した。この出土の状況から、時期を判断するのは難しいが、縄文時代後期のものといえよう。

(2) 時期が判然としない遺構

溝SD1

調査区東端から6mの地点にあり、幅40～60cm程度、深さ5～9cmの溝である。調査区を南北に縦断しており、ほぼ方位に沿っている。地域あるいは区画を示すものであろうか。埋土から遺物の出土はなく、時期は判然としない。

柱穴Pit2以外

規模は、直径20～90cm、深さは10cm以内である。埋土からの遺物がないため、所属時期は判然としにくい。

(元座範子・小濱学)

3 遺物

柱穴pit2出土遺物

1は、薄手の土器外面に条線が数条施された縄文土器深鉢体部片である。縄文時代中期後半には、無文系土器群である条線地の土器群が確認されており、縄文時代後期、中津式期に多くなる傾向がある⁽¹⁾。これまでに当遺跡で確認された土器と比較して、縄文時代後期に属するものといえよう。

(小濱学)

IV. 小 結

今回の調査区内においては、明確な時期がわかる遺構やこれまでに確認されているような旧石器時代から縄文時代にかけての良好な資料を確認することはできなかった。今回の調査結果は、調査区以外の部分に、遺跡の主要な部分が展開している可能性を

示唆するものといえよう。このような遺跡の情報を積み上げることにより、埋蔵文化財の保護や地域が紡いできた歴史を紐解くヒントにつながるのではないかと思う。今後の遺跡情報の集積に期待したい。

(小濱学)

註

- (1) 三重県埋蔵文化財センター2018『との山・アレキリ遺跡(第1～3次)発掘調査報告～度会郡玉城町中角～』
- (2) 玉城町史編纂委員会1995『三重県玉城町史』上巻
- (3) 玉城町教育委員会1985『玉城町文化財調査報告Ⅱ三重県度会郡玉城町 上地山遺跡発掘調査報告書』
- (4) 三重県埋蔵文化財センター2006『岩出遺跡群(第5・7・8次)発掘調査報告』、三重県埋蔵文化財センター1993『近畿自動車道(勢和～伊勢)埋蔵文化財発掘調査報告～第6分冊一 蚊山遺跡左部地区』

- (5) 註2、三重県埋蔵文化財センター1991『近畿自動車道(勢和～伊勢)埋蔵文化財発掘調査報告～第3分冊一 楠ノ木遺跡』
- (6) 註2に同じ。
- (7) 伊勢市2012『伊勢市史』、伊勢市教育委員会1990『佐八藤波遺跡発掘調査報告』
- (8) 小濱学2005『縄文時代後期前半期における無文系土器の製作と変容』『考古学フォーラム18』考古学フォーラム

写真図版 1



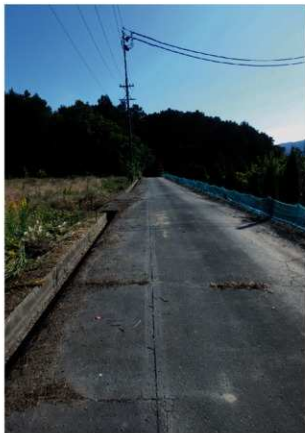
遺跡の遠景 1 (北西から)



遺跡の遠景 2 (北東から)



遺跡と周辺の地形（南西から）



調査前の状況 1（西から）



調査前の状況 2（東から）

写真図版 3



調査区東端の掘削状況（東から）



調査区西端の状況（東から）



SD1掘削状況（北から）



調査区東端から9m付近（北から）

写真図版 5



調査区東端から14m付近（北から）



調査区東端から19m付近（北から）



調査区東端から27m付近（北から）



調査区東端から32m付近（北から）

写真図版 7



出土縄文土器



工事施工後の状況（東から）

報告書抄録

ふりがな	みょうずいせきはつくつちょうさほうこく ～みえけんわたらいでんたまきちょうみやこ～							
書名	明豆遺跡発掘調査報告 ～三重県度会郡玉城町宮古～							
副書名								
巻次								
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	407							
編著者名	元座範子、小濱 学							
編集機関	三重県埋蔵文化財センター							
所在地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503 TEL 0596 (52) 1732							
発行年月日	2022(令和4)年3月16日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
みょうずいせき 明豆遺跡	みえけんたかいぐんたまきちょうみやこ 三重県度会郡玉城町宮古字明豆	24461	137	34度 28分 19秒	136度 38分 38秒	20201201 ～ 20201202	40㎡	高度水利機能確保基盤整備事業(宮川左岸地区)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
明豆遺跡	散布地	縄文	溝、柱穴	縄文土器片				
要 約	明豆遺跡は、度会郡玉城町宮古の汁谷川右岸の段丘上に位置している。主な遺構は、溝が1条、柱穴1基等を確認した。遺物は縄文土器が出土している。							

三重県埋蔵文化財調査報告407

明豆遺跡発掘調査報告
～三重県度会郡玉城町宮古～

2022(令和4)年3月

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター
印刷 共立印刷株式会社
